



気仙沼市の中心部では、大小様々な船舶が至る所に
打ち上げられているが、撤去のめどが立っていない。



手り津波に耐えた建物も、今回の津波には耐えられなかった



鹿折地区の惨状。2週間前と比べて、道路上の瓦礫撤去は進んでいるが、
そのほかは手つかずに見える。(第2便の写真と比べてみてください)



気仙沼湾を一望できる安波山からの眺望。

遠目にはふつうの街並みに見えるが、かろうじてコンクリ建造物の外壁のみ残る廃墟のようなエリアが多い。



酒造 男山本店の3階部分(上の写真は震災前)

1・2階部分が完全に流出している。



東岸から気仙沼湾を見る。油まみれの瓦礫は、燃えた形跡がある。

左は、1月以上経った今でも遺体を捜索している自衛隊の高機動車。



河口からさかのぼり鹿折川に流れ着いた漁協の燃料タンク。

もともとは気仙沼湾の湾口に建てられた備蓄タンクの一つ。



避難所になっている最知地区・海蔵寺への物資提供。

一般の物資はかなり届いているが、青果物は貴重品となっている。



仙扇寺の庭に設置された避難者用のお風呂。

大きな釜をつかった五右衛門風呂が4つあり、被災者同士で運用している。



すっかり何もなくなってしまった小泉地区。(往路)



すっかり何もなくなってしまった小泉地区(復路)



国道45号線の小泉大橋も気仙沼線の鉄道橋もなくなり、
道路も新しい切り通しを掘削して迂回させていた。



南三陸地区・歌津中学校での物資提供。

ここでも青果物は貴重品で、すぐ在宅避難者へも割り振られていた。



線路が斜面をずり落ちているが、これでも原型をとどめている方で、
海岸沿いで無傷な線路はない。



石垣に打ち上げられたアルミバンタイプのトラック。

微妙なバランスで引っかかっている大型の瓦礫はたくさんあり、

突然崩れるなどの事故などが心配される。



第3便のメンバー。

左から、本多くん、長島さん、柳川さん、そしてPeace Jam代表の佐藤さんとメンバーのみなさん(写ってないメンバーもいます。)

第3次便 気仙沼中心部以南の物資提供先

